

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第42週（10月14日～10月20日）

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 減少」

第42週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,814例であり、前週比22.2%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.05、2.37、1.52、0.75、0.43であった。

感染性胃腸炎は前週比10%減の597例で、南河内5.94、中河内4.65、大阪市北部3.46、泉州3.35、三島3.06である。

RSウイルス感染症は前週比34%減の464例で、大阪市北部5.00、南河内4.75、北河内3.11であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比16%減の298例で、南河内2.25、中河内2.05、北河内2.04である。

手足口病は前週比18%減の147例で、南河内1.63、三島1.35、大阪市南部1.22であった。

伝染性紅斑は前週比35%減の84例で、大阪市北部0.85、南河内0.81、堺市0.63である。

インフルエンザは8%増の70例で、定点あたり報告数は0.23であった。中河内0.39、南河内0.38、大阪市西部0.36、大阪市北部0.32、泉州0.27である。

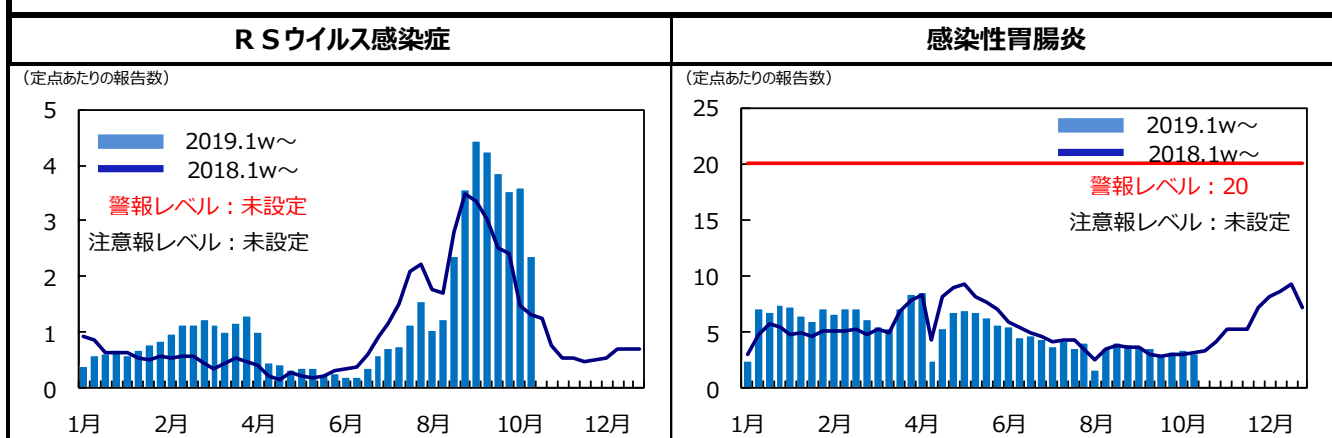


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第42週10月14日～10月20日）

第42週の順位	第41週の順位	感染症	2019年 第42週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第42週の 定点あたり 報告数	2019年第42週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	2	感染性胃腸炎	3.05	10%減	3.08	1歳_14%
2	1	RSウイルス感染症	2.37	34%減	1.31	1歳未満_38%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.52	16%減	1.77	4歳_16%
4	4	手足口病	0.75	18%減	1.13	1歳_24%
5	5	伝染性紅斑	0.43	35%減	0.14	3歳4歳_17%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.23	8%増	0.33	4歳_16%

第42週のコメント

～梅毒～ 大阪府における2019年の梅毒報告数は800例を超えたが、2018年同時期を下回っている

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の報告数は、2010年より増加傾向にある。大阪府における2018年の報告数は、1100例を超え、前年比1.4倍を上回った。感染症法が施行された1999年以降、最も多く報告されている。梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[梅毒とは\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

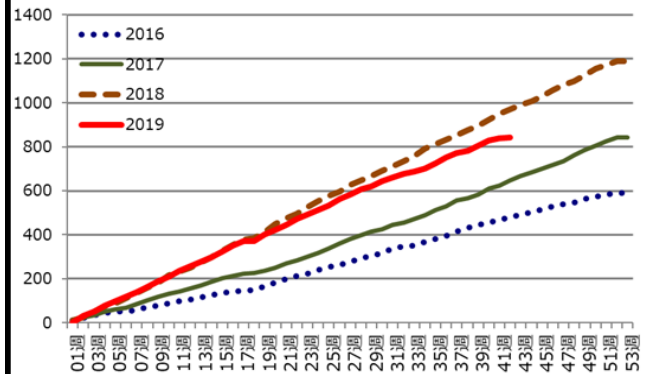


表2. 大阪府全数報告数 (2019年 第42週10月14日～10月20日)

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています)

	疾患名	報告数	府内							府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		大阪市
3類感染症	報告はありません										
4類感染症	デング熱	1		1						48	
	日本紅斑熱	1							1	6	
	レジオネラ症 (肺炎型)	2					1	1		100	
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2		1					1	154	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2			1	1				53	
	後天性免疫不全症候群	2							2	105	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		1					1	38	
	侵襲性肺炎球菌感染症	4		1	1			1	1	211	
	梅毒	10	1		1		1		2	5	865
	百日咳	13	1		2	1	3		1	5	729

結核 (2019年8月分) 結核 新登録患者数：138名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 54名)
(府内累積報告数 1,121名、内 肺・喀痰塗抹陽性 439名)

(2019年10月23日 集計分)